姫路市教育委員会文化財課（平成19年２月28日初版）
（平成22年４月15日増刷）

『魚吹八幡神社周辺』をたずねて

魚吹八幡神社を中心とする山陽電鉄網干駅からJR網干駅にかけての地域は、揖保川、大津茂川の氾濫などによって形成された沖積平野で、丁（よろ）・柳ヶ瀬遺跡、坂出遺跡、瓢塚古墳などの縄文、弥生、古墳時代の遺跡や条里制の遺構、さらに『播磨国風土記』の「宇須伎津」などの記述からみて早くから開発が行われた地域であることがわかる。

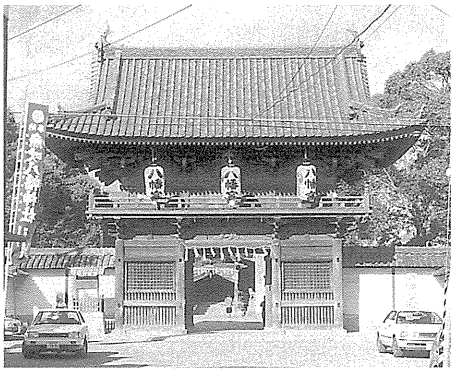
南北朝期に成立した『峯相記』によれば魚吹八幡神社周辺は、古く「神出ノ保」と呼ばれていたが、平安末期には、福井荘（福井庄）が成立し、後に京都の神護寺領となった。

江戸時代になるとこの地域は細分化され、興浜、浜田、宮内、津市場、上余部、下余部は四国の丸亀藩の飛地となった。上川原、坂上、宮田、坂上出屋敷（坂出）、和久、朝日谷、高田、丁は龍野藩領となり、余子浜、新在家、熊見、山戸は幕府領として複雑に入り組んだ支配を受けた。

明治時代に入り各村が合併して勝原村、旭陽村、余部村、網干町となり揖保郡に属していたが、昭和21年に姫路市に合併し勝原区、網干区、余部区となり、旧村名を大字に残して現在に至っている。

この地域は、農村地帯として発展してきたが、近年の急激な開発によって都市化が進み、条里制の遺構などが失われ、景観が大きく変わりつつある。

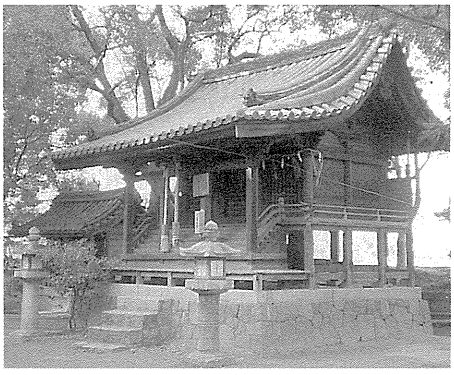
▲魚吹八幡神社秋季例祭



魚吹八幡神社楼門
県指定文化財

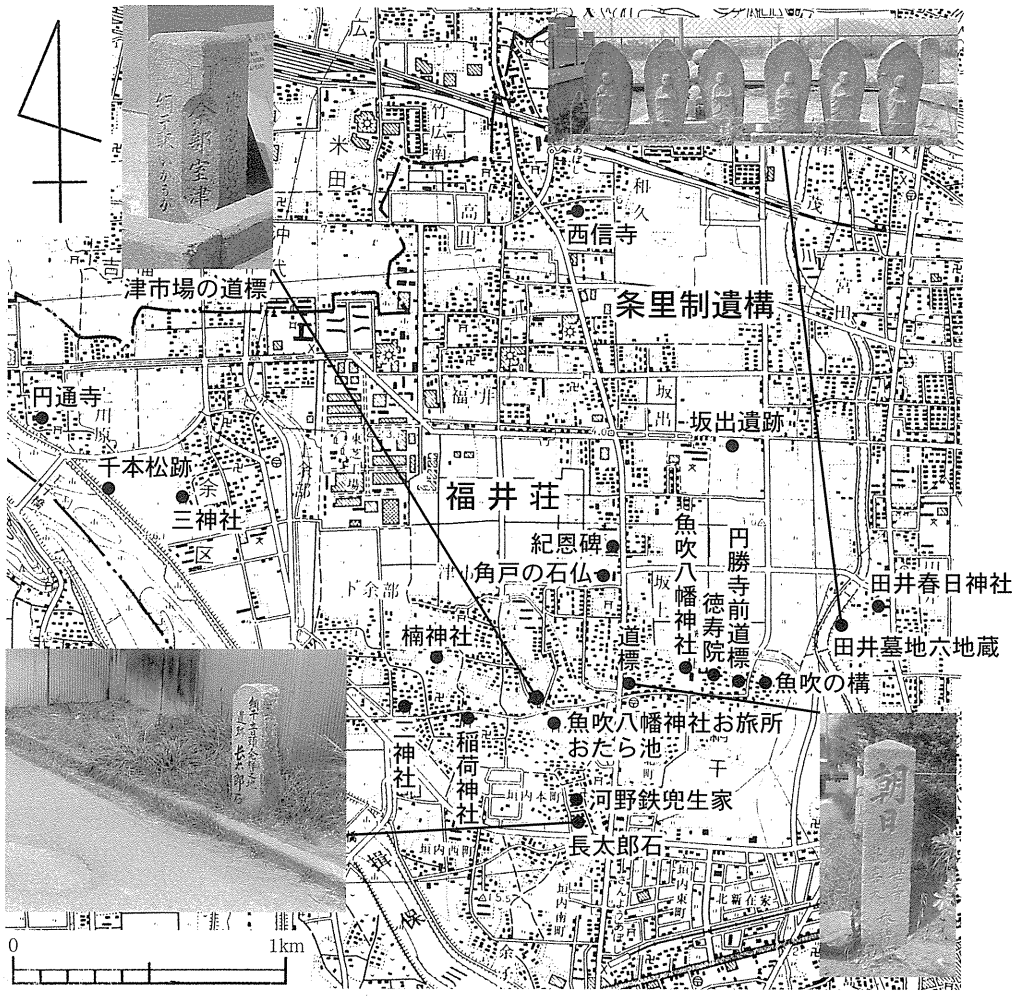
魚吹八幡神社　祭神は息長足姫命、品陀和気命、玉依比売命。創建年代については、仁徳天皇７年、神亀２年(725)説や『峯相記』の貞観２年(860)説などがある。平安時代末期に石清水八幡宮の別宮となり、魚吹八幡神社と呼ばれるようになった。旧福井荘の28か村が氏子といわれ、この地域の中心的な神社である。

祭礼としては、元旦の千本突きや7月14日の千灯祭、10月21日、22日の秋祭が有名である。本殿は、三間社入母屋造り千鳥破風付檜皮葺き。18世紀の建築と考えられ、淡路の神社建築技術の系統を引き、播磨における特異な本殿として注目されている。楼門は、江戸中期の三間一戸楼門の代表的な遺構を残し、県指定文化財になっている。



摂社敷島神社本殿
県指定文化財

摂社敷島神社は、本殿の背後にあり三間社流造りで、正保2年(1645)頃の建築といわれ、江戸時代初頭の神社建築の技法を伝え、県指定文化財になっている。



徳寿院　真言宗高野山平等院末寺。創立年代は不詳であるが、元は魚吹八幡神社の社務を支配する神宮寺として、等覚院と共に津宮山魚吹密寺徳寿院として境内の北西に建立されていたものである。本堂は小規模であるが、18世紀前半に神宮寺本堂として建立されたもので、当時の建築の技法を良く残している。内部には僧形八幡菩薩などを祀り、不動明王の台座は鎌倉時代初期のものといわれている。薬師堂の本尊台座に津宮山魚吹密寺別当徳寿院円秀の名と、元禄14年(1701)修復の銘がある。また、13代社僧法道が文政3年(1820)の水争いの解決に力を尽くした記念に、手洗石が寄進されたことが境内の石碑に記されている。

徳　寿　院

魚吹の構　魚吹八幡神社の東に「殿垣内」という字があり、その中に「堀内」という地名が残っている。ここが魚吹の構跡である。東西約150m、南北約189mで扇状の地形を囲むように堀跡と「門の口」「番屋口」など地名が残っている。この構については、室町時代中期の臨済宗の僧季弘大叔の日記『蔗軒日録』の文明18年４月19日の条に「播州の阿賀、福井の中の津の宮城が12月16日に降伏した。山名政豊が赤松に勝利をおさめた。」が初見史料で、この魚吹の構は15世期末にはすでに築城されていたことがわかる。

魚吹の構跡

魚吹八幡神社お旅所とおたら池　お旅所は別名「西の馬場」ともいわれ、魚吹八幡神社の渡神殿がある。秋の祭礼には、24か町村から屋台18台、壇尻4台、獅子舞いなどが御輿を迎えて勢揃いする。お旅所の北西隅におたら池がある。古来、津市場の人々はこの池を聖池として大切にしてきた。この付近を『播磨国風土記』の「宇須伎津」とする説もある。

稲荷神社（津市場）　祭神は倉稲魂命。拝殿には、江戸時代盛大に行われていた津市場の火揚げの様子を克明に描いた祭礼図絵馬・元治2年(1865)が奉納されている。火揚げは、昭和10年頃まで毎年8月16日に行われていたが、現在は廃止されている。境内には、嘉永元年(1848)の常夜燈や「當村源兵衛五十二才」「力石　八斗」などと刻んだ力石が数個ある。

河野鉄兜の生家と長太郎石（余子浜）　鉄兜は文政8年(1825)生まれ、少年時代に神童とよばれ、梁川星巌に詩を学び今山陽とよばれた。のち林田藩校敬業館の教授となり、数多くの詩を残した。その筆法は、天女が春風に袖をひるがえして舞う趣があったといわれる。生家跡には、網干という七言絶句を彫った石碑が建てられている。また、万福寺の南には、伝説上の人物で、網干音頭に歌われている長者の長太郎の屋敷跡の礎石だといわれる石が残っている。

角戸の石仏　旭陽小学校の南西の田の中に、ブロックで囲んだ小屋がある。その中に鎌倉時代初期のものいわれる花崗岩の三体の石仏がある。約60cmの舟形光背をもつ半肉彫りの坐像で、二体は阿弥陀像で一体は不明である。この石仏の由来については、源頼朝の知遇を得て京都神護寺の復興に大きな功績があり、また、福井荘の経営に尽くした文覚上人を慕って関東より来た角戸三郎が、上人の九州配流を知り失望のあまり、この地で最後をとげたので、村人が菩提を弔うために建てたという説があるが、詳細については不明である。また、付近から古い布目瓦が出土するので、古い寺院の跡だともいわれ、小屋のそばに文覚寺跡の石碑が建てられている。

山岡彦之助の紀恩碑（旭陽小学校内）　山岡彦之助は旧龍野藩士で、明治7年(1874)、旭陽小学校の前身である日躋小学校の教員となり38年間在職、旭陽村の子弟の教育に尽くした。碑は彦之助の功績を称えるため有志によって建立されたもので、明治5年(1872)8月学制発布によって、日躋小学校が創立され、のち輯盛小学校、旭陽尋常小学校と、旧旭陽村の近代教育の変遷を物語る碑でもある。

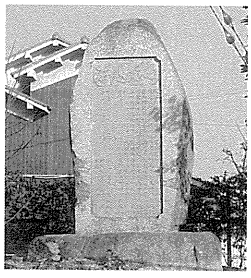
福井荘　『峯相記』によれば、魚吹八幡神社周辺の地域は「神出ノ保」とよばれ、平安末に興福寺領福井荘が成立、平家領から後白河院領、高野山大塔領をへて文覚上人が京都の神護寺を復興するにあたって譲渡し、元暦2年(1185)以降は神護寺領となった。荘園の範囲は、宮内村、太居村(田井)、宮田、津濃市庭村(津市場)、坂上村など28か村におよび、現在の余部区をのぞく朝日中学校区、網干中学校区、大津中学校区、広畑中学校区と太子町の一部となっていた。

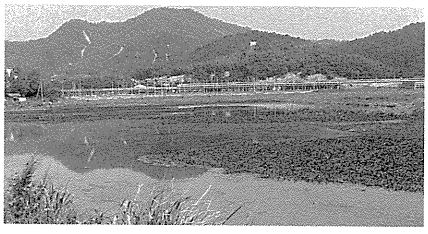
渡　神　殿

火揚げ図絵馬

河野鉄兜詩碑

角戸の石仏


紀恩碑


福井大池

坂出遺跡　宮内の字沼・高田にあり、大津茂川流域にある遺跡では、最も下流に位置する。昭和24年に工業用の水道管の埋設工事中に弥生土器と竪穴式住居跡が発見された。さらに下層より縄文時代後期の甕片と石斧が出土したが、発掘調査が実施されなかったために遺跡の詳細については不明のままになっていた。昭和58年に朝日中学校の施設拡充範囲が、市教委によって調査され、坂出遺跡は、朝日中学校の西までは及んでいないことが確認された。この結果、遺跡の中心が北部、または東部の微高地に存在する可能性が高くなった。

坂出遺跡

西信寺（和久）　西の坊ともいわれている。文治年間に福井荘地頭吉川氏によって、法然の高弟信寂上人が朝日山の東麓に迎えられ、浄土宗播磨義が栄えた。その坊舎は36坊ともいわれたが、再度の戦火によって焼失し、西の坊だけが残り和久村に移されたという。本堂前の安永9年(1780)の常夜燈に「西之坊」の名が残っている。本堂の庇に吊るされている喚鐘には、享保14年(1729)の銘がある。境内には、137cm×83cmの家型石棺の蓋がある。

如来尊号甚分明　千時
十方世界普流行　享保十四年己酉七月六日
但有稱名皆得往　播州揖東郡和久村
観音至勢自来迎　西之坊常住物
釈ㄅ帰　願主　釈ㄅ説
為志　釈尼妙栄　施主　當村
釈尼智春　代谷九郎右衛門妻
釈尼妙義礒　姫路京口住
治工　小野六大夫

西信寺鐘銘

千本松跡　揖保川東岸の上余部から上川原の王子橋辺にかけて元禄年中に、時の庄屋であった岩村源兵衛村行によって、堤防の補強と風致のために576本の松が植えられ景勝地となっていた。明治44年頃までは、72本の松が残っていたが、現在は一本の松もなく、昭和13年に上余部村によって建てられた「旧勝千本松跡」の石碑のみが建っている。

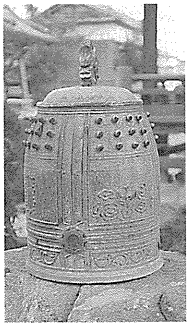
千本松跡碑

千度石

三神社（上余部）　祭神は天兒屋根命、武御名方命、八坂入姫命の三神。創建については、寛徳元年(1044)という伝承がある。江戸時代には、諏訪神社と呼ばれていたが、明治時代になって三神社と改称したらしい。境内には、山王社、荒神社などが祀られ、安永4年(1775)、天保2年(1831)、天保12年(1841)、嘉永4年(1851)の常夜燈と拝殿前には慶応3年(1867)の狛犬がある。また、百度石と並んで、特殊な願いを祈願する千度詣のための千度石がある。

二神社（下余部）　祭神は伊弉諾命、伊弉冉命、多力雄命。境内には大将軍神社と太古宮を祀る。また、ムクの木2本とエノキが保存樹に指定され、「奉納　さし石　佐兵衛」と彫られた力石が保存されている。また、下余部班ポンプ車庫横にも、「當村　芳五郎持」と彫った力石がある。

力石



円通寺鐘

円通寺の喚鐘（上川原）　本堂北の庭石の上に喚鐘が置かれている。享保9年(1724)の銘を持ち、寄進の由来が陰刻されている。境内には、天保4年(1833)の手洗石もある。

条里制遺構　旭陽小学校や朝日中学校周辺の水田には、畦が碁盤の目のように地割りされた条里制の遺構が残されており、「二ノ坪」などの字名がある。この条里地割りは、魚吹八幡神社の北で終わり、当時の開発が網干までは及んでいなかったことがわかる。朝日中学校区は、18条から20条、5坊から8坊の中に入るが、急激な開発によって消滅しつつある。

朝日山より南望

■編集　石塚太喜三　（姫路市文化財嘱託調査員　姫路市市史編集室嘱託）